

鹿島郡の刈野橋にして、大伴 卿を別るる

歌一首 并せて短歌

一七八〇番

牡牛の 三宅の潟に さし向かふ 鹿島の崎に
さ丹塗りの 小舟を設け 玉巻きの 小櫂しじ貫
き 夕潮の 満ちのとどみに み舟子を 率ひ
立てて 呼び立てて み舟出でなば 浜も狭に
後れ並み居て 臥いまるび 恋ひかも居らむ 足
ずりし 音のみや泣かむ 海上の その津をさし
て 君が漕ぎ行かば

反歌

一七八一番

海つ路の 和ぎなむ時も 渡らなむ かく立つ波
に 舟出すべしや